

♪ きよしこの夜

司祭 ヨハネ 井田 泉

クリスマスの準備をする＜アドベント（降臨節）＞に、礼拝堂には4本の赤いろうそく（アドベント・クランツ）が置かれ、毎週ひとつずつ光を増やしていきます。これは、私たちが照らす大きな愛の光であるイエスさまが来られるのを感じつつ、喜び迎えることをあらわします。

「アドベント」とは元々「到来」という意味です。救い主がひとたびこの世界においてになったことを祝い感謝しながら、やがて再びおいでになってわたしたちと世界の救いと平和を完成して下さるのを待ち望む、という意味がこの言葉にはこめられています。

♪ きよしこの夜 星は光り

救いの み子は まぶねの中に

眠りたもう いとやすく

よく知られたクリスマスの歌ですが、その情景を思い浮かべてみましょう。……

澄みわたる美しい夜、星が輝いています。飼い葉桶の中でイエスさまはすやすやと眠っておられます。

♪ きよしこの夜 み告げ受けし

まきびとたちは み子のみ前に

ぬかずきぬ かしこみて

天使のお告げを聞いた羊飼いたちは、イエスさまの前にひれふして拝みました。この上なく清らかで優しく温かく尊い方に、お会いできた喜びに満たされます。

♪ きよしこの夜 み子の笑^えみに

恵みの み代の あしたの光

かがやけり ほがらかに

赤ちゃんのイエスさまがにっこりとほほえみました。それを見た人たちはとてもしあわせな気持ちになりました。きっとこのほほえみから神さまの愛が広がって、世界に平和が訪れるでしょう。闇がどんなに深くても大丈夫。ここに救いの光があるのです。みんながしあわせになる新しい時代の夜明けの光が輝いています。

降誕の主イエスさまの恵みの光が皆さまの上に輝きますように。

（日本聖公会奈良基督教会司祭）